

社会科学習指導案

日時 平成28年9月9日(金) 1校時
会場 3年3組教室
学級 3年3組(男16名 女15名 計31名)
授業者 佐藤 浩之

1 単元名

【公民的分野】 第1章 現代社会と私たちの生活 3節 現代社会の見方や考え方

2 単元について

(1) 生徒観

生徒は、前単元において、現代の日本の社会にはグローバル化、情報化、少子高齢化という特色が見られること、文化の役割や様々な場面で伝統文化の影響を受けていることを学習してきており、グループで学習課題について考える活動では、資料をもとに意見を活発に交流する場面が多く見られた。また、生徒は日常の活動として、新聞記事をスクラップしたものをもとに記事に対する考えを発表することをしてきており、社会におけるニュースに接し、現代社会の事象や様々な問題に興味・関心をもつ生徒が多い。その結果、資料から自分の考えを表現する力が身に付いてきている。

しかし、現代社会の問題をどのように解決していくか、特に、個人と社会との関わりについて多面的・多角的に考えたり、筋道を立てて説明したりすることに苦手意識をもっている生徒も見られる。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領公民的分野の内容「(1) 私たちと現代社会 イ 現代社会を捉える見方や考え方」であり、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義を考えさせることを通して、現代社会を捉えるための概念的枠組みの基礎として、「対立と合意」、「効率と公正」などの見方や考え方があることを理解させることをねらいとしている。

人間は家族や地域社会などの社会集団に所属して生活をする社会的存在である。社会集団の中では意見の食い違いによる「対立」が生じた場合、多様な考えをもつ人が社会集団の中で共に成り立ちうるように、また、互いの利益が得られるように、何らかの決定を行い、「合意」に至る努力がなされている。

その際、「効率」や「公正」の見方や考え方が判断基準となることを理解することが必要となる。「効率」は、社会全体で無駄を省くという考え方である。「公正」は、みんなが参加して決めているかというような「手続きの公正さ」や、不利益を被っている人がいないか、同じく機会や結果が与えられているかというような「機会や結果の公正さ」という考え方である。これらの見方や考え方を、日常身の回りで起こりうる具体的事例を取り上げ指導することによって、関心を高めるとともに理解を深めることができるようにしていく。

また、合意したことをきまりとして守ることにどのような意味があるのか、きまりは誰の何を保障するのかを考えることは重要なことである。さらに、きまりを評価し見直していく際にも「効率」や「公正」の見方や考え方が使われていることも捉えることができるようにしていく。

ここで習得した見方や考え方は、これ以降の学習においても生かしていくとともに、繰り返し吟味して、さらに広く深く成長させていくことが大切であると考えられる。

(3) 指導観

本単元では、社会生活に見られる問題の事例を取り上げることで関心を高めていくとともに、資料を読み取り、活用することにより、具体的な問題解決の仕方について自分の考えをもち、その内容を交流する中で自分の意見を理由付けしながら説明することができるようにさせていく。このことにより、現代社会の見方や考え方についての理解を深めさせるとともに、思考・判断・表現に関わる力を育てていきたい。

そこで、「よりよい決定の仕方とはどのようなものか」「なぜきまりが作られるのか」「私たちにとってきまりとは何だろうか」などといった問いを追究することを通して、「物事の決定の仕方」や「きまり」の意義などについての考えを深めることができるようにしていく。

(4) 研究との関わり

○ 主体的な学び

社会生活に見られる具体的な事例について話し合う中で、そこにどのような問題があるか、どのように解決していけばよいかといった問いをもつことができるようにしていく。また、問題解決の方向性を考えるなど、学習の見通しをもつことによって主体的に課題を追究することができるようにしていく。

○ 協働的な学び

グループ内で課題に対する考えの交流を行い、考えを共有するとともに個々の考えを比較し、類似点や相違点を捉えるなどして、よりよい考えを構築することができるようにしていく。

○ 振り返り

社会生活における物事の決定の仕方やきまりの意義について、新たに感じたことや考えたこと、気づいたことを記述させ、現代社会を捉える見方や考え方の価値や意義に対する自分の考えをもつことができるようにしていく。

3 単元の目標

- (1) 社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義に対する関心を高め、それらを意欲的に追究しようとする。 **【社会的事象への関心・意欲・態度】**
- (2) 社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について多面的・多角的に考察し、集団間の問題の解決に当たっては対立と合意、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察するとともに、その過程や結果を適切に表現することができる。 **【社会的な思考・判断・表現】**
- (3) 社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。 **【資料活用 of 技能】**
- (4) 社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義と、現代社会を捉える見方や考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などについて理解することができる。 **【社会的事象についての知識・理解】**

4 指導と評価計画（5時間）

時間	学習活動	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
1	人間が社会的存在であることを理解し、対立の存在と合意への努力について考える。		社会集団における対立の存在に気付くとともに、合意を目指すことが重要であることについて、多面的・多角的に考え、それを適切に表現している。		自分が家族や地域社会などの複数の社会集団に所属していることに気づき、人間が社会的存在であることを理解している。
2 (本時)	学校でのトラブルについて合意に至る解決策を考え、効率と公正について理解する。		具体的な事例の解決策について、効率と公正の考え方を踏まえて多面的・多角的に考察し、それを適切に表現している。		合意に至る解決策を考えるときに、効率の考え方や、手続きや機会・結果の公正さがあることを理解している。
3	きまりを作る目的と方法について、資料をもとに考え理解する。	物事の決定の仕方やきまりの意義について関心を高め、それらを意欲的に追究しようとしている。		物事の決定の仕方やきまりの意義についての資料を収集し、適切に選択して読み取っている。	

4	既にあるきまりの問題点を読み取り、きまりの見直しや評価について考察する。		きまりの改定案について、評価する五つの視点に基づいて多面的・多角的に考察し、意見交換をしている。	事例について問題の状況と、規則と住民の意見から問題点を読み取り、要点を書き出している。	
5	単元の確認と振り返りをする。	単元テスト・学びのリフレクション			

5 本時について

(1) 主題 効率と公正

(2) 学習目標 部活動でのトラブルについて合意に至る解決策を考えることを通して、効率と公正について理解することができる。

(3) 評価規準【評価方法】

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手立て
社会的な思考・判断・表現	事例について、何が問題であり、どのように解決していけばよいか、効率と公正の考え方をふまえて根拠を明確にしながら考察し、それを適切に表現している。 【ノートのメモ，振り返りシート】	・机間指導において、事例に立ち返り問題点を確認させる。
社会的事象についての知識・理解	合意に至る解決策を考える際に、効率の考え方や、手続きの公正さや、機会や結果の公正さの考え方が必要であることを理解している。 【ノートのまとめ】	・机間指導において、板書をもとにポイントを指摘し、本時の課題に対してまとめをするよう声掛けをする。

(4) 指導の構想

本時は前時の対立と合意の学習を受け、具体的事例の問題点を捉え、合意に至る解決策を導くためにどのような考え方が必要であるかを考え、効率と公正について理解できるようにする。

○ 課題・見通し

部活動のトラブルの具体的事例から、何が問題であるかを捉えさせ、学習課題である合意するためにどのような考えが必要かの問いをもつことができるようにする。

○ 自力解決・探究

どんなことに気を付けて考えたかを大切にしながら自分の考えをもたせ、考える場面では図を用いることで考えやすくしたい。

○ 協働・深化

合意する解決策をグループで話し合い、意見を一つにまとめ、学級全体で話し合う中で「効率」「公正さ」を理解することができるようにする。

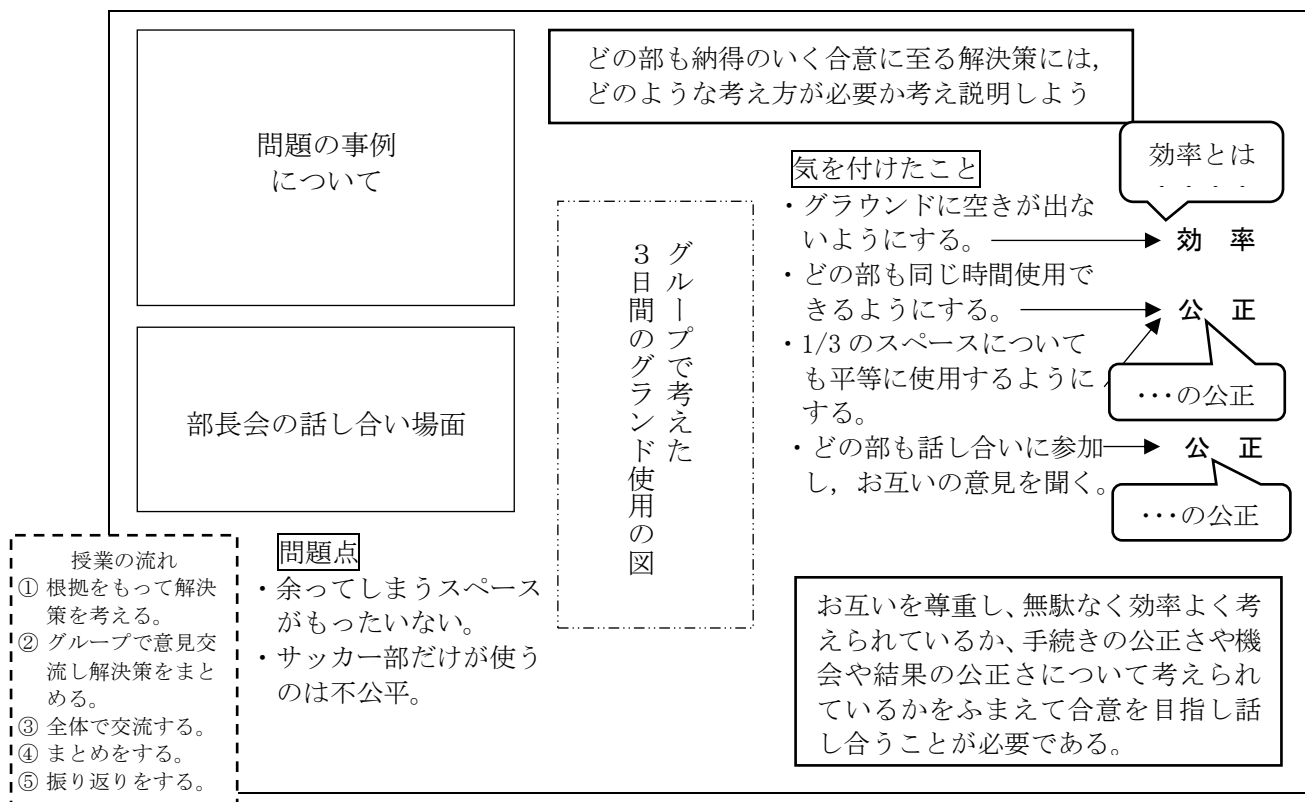
○ 学習の整理

課題を追究した中で得られた考え方について、用語を用いてまとめさせる。また、本時の学習を振り返り、「効率と公正」について自分はどうに考えるかなどをまとめ振り返らせる。

(5) 展開

学習過程	学習活動	学習内容 ・予想される生徒の反応	■指導の工夫・支援 ●評価 ◇振り返りの場面・活用
課題・見通し 8分	1 前時の学習を想起する 2 学習課題を設定する <div data-bbox="271 600 991 680" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どの部も納得のいく合意に至る解決策には、どのような考え方が必要か考え説明しよう</div>	○ 対立と合意の確認 ○ 資料から部活動のトラブルについての確認 ○ 部長二人の意見の問題点を考える ・ ソフト部，陸上部が使うときに余ってしまうスペースがもったいない。 ・ サッカー部だけが使うのは不公平。	■ 合意に至るには互いに受け入れることのできる内容であることを確認する。 ■ 事例を図とともに板書し，トラブルの内容を捉えやすくする。 ■ 部長二人の意見の問題点を話し合わせ，「無駄が出ること」「不公平であること」など，解決策を考える際の視点をもたせる。
自力解決・探究 8分	4 個人で根拠を明らかにしながら解決策を考える	○ 解決策を考え、効率や公正に至る考えを書き出す ・ グラウンドに無駄がない。 ・ 余ったスペースも平等に使用する。 ・ どの部もオールコートで使える日がある。 ・ 同じ時間使用できる。	■ 問題点を確認し，根拠を明らかにしながら解決策を考えるように促す。 ■ グラウンドの使用の仕方を図示させ，解決策を明確に示せるようにする。 ● 効率と公正の考えをふまえて解決策を記述している。
協働・深化 22分	5 グループで交流しまとめる 6 全体での交流，まとめ	○ 共通点や相違点などについて確認し，グループの考えをまとめる ○ 解決策に共通する点を考え，効率と公正の考え方を理解する ア) スペースに無駄が出ないように無駄なく使っている …「効率」 イ) 時間や場所が公平になるように考えられている …「機会や結果の公正さ」 ウ) どの部も参加して話し合い決定している …「手続きの公正さ」	■ それぞれの解決策の問題点を指摘したり，共通点・相違点について話し合ったりして，よりよい解決策にまとめることができるようにする。 ■ 共通点について抜き出し，「効率」「機会や結果の公正さ」の考え方に分け，大切にされている考え方を捉えることができるようにする。 ■ 「手続きの公正さ」については，話し合いに全員がいなかったらどうであるかを問いかけ気づくことができるようにする。 ■ 考えの違いや新たな発見について，吹き出しを使ってノートに書き入れるよう促す。
学習整理 12分	7 合意に必要な見方や考え方をまとめる <div data-bbox="284 1771 1002 1890" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お互いを尊重し、効率よく考えられているか、手続きの公正さや機会や結果の公正さについて考えることが必要である。</div> 8 振り返りをする	○ ノート記入と発表 ○ 本時の振り返り	■ まとめられないでいる生徒には，机間指導でポイントを確認させ記述できるようにする。 ● 効率の考え方と，手続きの公正さや，機会や結果の公正さの考え方が必要であることについてまとめられている。 ◇ 本時の学習で感じたことや考えたことなどを振り返りシートに書き授業を振り返る。

(6) 板書計画



(7) 「学びのリフレクション」の視点

本単元2時間分を振り返って、学んだこと、思ったことや考えたことなど感想を発表し合わせる。そこから、今後の生活や学習に生かしていきたい考え方や新たな疑問についても考えさせていく。その際、振り返りシートを参考にしながら、自分の言葉で発表できるようにさせる。

社会科教科リーダーが司会進行を行うが、「個々の考え方の理由」を聞き出していけるようにさせていきたい。

1. 「対立と合意」「効率と公正」について学習してきましたが、これらの学習で思ったことや考えたこと、感想などを発表してください。
2. 学習して新たに思った疑問や、今後の生活や学習に生かしていけることについて考えたことを発表してください。